ルファルシオンと松田調教師。飼葉食いも旺盛です!

小島友実の

あの馬のSTORY

ルファルシオン

先月の‘愛馬会だより’でグリーンファーム、現3歳世代のチチカステナンゴ産駒は2頭が勝ち上がっているとお伝えしましたが、その2頭目が松田国英厩舎のルファルシオンです。

松田調教師がこの馬を初めて見たのは一昨年の春。その時の印象、そして育成段階の様子をこう話します。

「歩く姿に伸びがあり体型も理想的。母系に重賞馬がいて、血統面からも楽しみだなと思いました。飛節の角度も無理がないので、大型馬でも馬体に負担がかからない。育成も順調でしたね」

その後、8月の小倉戦でデビュー。レースでは好位で流れに乗って2着と、上々のスタートを切ったのでした。

「時計的にも次は勝てそうだと感じさせる内容。素質は高いと思いました」

しかしその後の3戦は4着、7着、6着と勝てないレースが続きます。

「あとで段々とわかってきたのですが、ヨーロッパ系の種牡馬の子供はある程度強い調教をしておかないと、馬にスイッチが入らない傾向があるんです。ルファルシオンの父はヨーロッパ系のチチカステナンゴ。ですから、5戦目の前は強めの調教を施したんです。そうしたら勝ってくれました(11月17日、京都芝1600㍍)。逃げる形で勝ちましたが、ちょうどいい溜めがあったし、時計も1分35秒3と速かったので、上のクラスに行っても通用する目処が立つ内容でしたよね」

実際に次のホープフルステークスではしぶとさを活かすレースで4着。松田師も、「経験を積む事で今後もっと良くなってくれそうです」と話し、手応えを掴んでいる様子でした。

取材に行った際、松田厩舎で馬を見せて頂きました。芦毛という事もあってか、近くで見るルファルシオンはとても可愛くて(牡馬ですけど)、大人しいのです。でも師曰く、突然こんな行動をする時があるそうです。

「うちの厩舎ではルックアラウンドと言って、一日数回、厩舎内で馬を歩かせて、私が馬体や歩様の状態をチェックするんですが、この時にルファルシオンは急に立ち上がる事があるんです。それまでは凄く大人しいのに(笑)」

という事でもう少し大人になる必要がある?ルファルシオン君なのでした。

そして年が明けて、1月1週目のレースへ登録を行っていましたが、1月2日に熱発。しかし幸いにも微熱で、大事には至りませんでした。

「微熱が出た後も休ませてはなく、3日間は引き運動をし、1月8日には坂路での調整を再開できています。今後は調教の動きや状態を見て、次のレースを考えていく事になるでしょう」

松田調教師にルファルシオンの長所、そして可能性について伺ってみました。

「この馬の素晴らしさはスタートで失敗しない事。ある程度の位置でレースが出来て、最後の直線でも力を出せる。だから現段階では小回りの2000㍍前後が合うでしょうね。ですから皐月賞は向きそうです。ただ、ダービーを勝とうとなると、もう少しパワーやふてぶてしさが必要になってきます。うちにいたクロフネやダイワスカーレットなど、G1を勝つ馬には肉食獣のような力強さがあるんです。そういう意味でまだルファルシオンは草食獣タイプ。肉食獣タイプになれそうな素質をこの馬も持っていますから、今後、自分の殻を破れるようになれば、もっと変われると思います。そのためにも、しっかり鍛錬していきたいですね」

去年のJCDをベルシャザールで制した松田厩舎。更に昨年は2歳馬が9頭も勝ち上がるなど、好調です。聞けば、「去年夏、更に馬術部出身のスタッフが増えて、他のスタッフの目の色が変わってきました。現在、うちにはG1馬を担当していたスタッフが7人もいるんですよ」と教えてくれました。

上昇ムードの松田国英厩舎。ルファルシオンが師の手腕によってどんな成長を遂げるのか、楽しみですね。

profile

グリーンチャンネル「トラックマンTV」(毎週金曜19:00～20:30)、ラジオNIKKEI「中央競馬実況中継」ほか競馬ファンにはお馴染みの顔。平日は地方競馬、週末は中央競馬、そしてプライベートでも競馬三昧の日々を送る。本業のアナウンスのほかにも、競馬ブックのコラム「小島友実の好奇心keiba それいけ現場」の連載など活躍の場を広げている。